

■ 概況

5/27～6/2のNYMEX・WTI先物市場は、66.32～68.83ドルの範囲で推移した。

6月3日は、一日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫統計で、原油は510万バレル減と市場予想を上回る減少だったが、ガソリンと中間留分が市場予想に反して増加したことで売り・買いが交錯し、わずかに反落した。OPECプラスは、本年下期の世界石油需要は経済回復で供給を上回ると分析した。7月限の終値は前日比0.02ドル安の68.81ドル。

週末4日は、堅調な米国雇用統計を背景に、今後のエネルギー需要増大への期待、対ユーロのドル安に伴う原油先物の割安感から、反発した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比横ばいの359基。7月限の終値は前日比0.81ドル高の69.62ドル。

週明け7日は、70ドルを目前に、利益確定売りが優勢となり、反落した。中国の5月の貿易統計で、原油輸入が前年同月比15%減少したことも下落要因となった。7月限の終値は前日比0.39ドル安の69.23ドル。

週明け8日は、EIAが短期見通しで本年通年のWTI原油価格通しを約5%引上げ61.85ドルと上方修正したこと、また、プリンケン米国務長官が米国がイラン核合意に復帰しても、多くの対イラン制裁は維持されるだろうと述べたことから、反発し、70ドルの台に乗せるとともに、中心限月終値ベースで、2018年10月以来2年8か月ぶりの高値を付けた。7月限の終値は0.82ドル高の70.05ドル。

9日は、前日までの高値による利益確定売りに加え、米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油が前

週比530万バレル減となったものの、ガソリンが前週比700万バレル増と市場予想を大きく上回る積み増しだったことが懸念され、小幅に値下がりがした。7月限の終値は前日比0.09ドル安の69.96ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、5月27日～6月2日の間67.10～68.80ドルの範囲で推移した。6月3日70.00ドル、4日69.50ドル、7日69.60ドル、8日69.40ドル、9日71.00ドルと推移した。

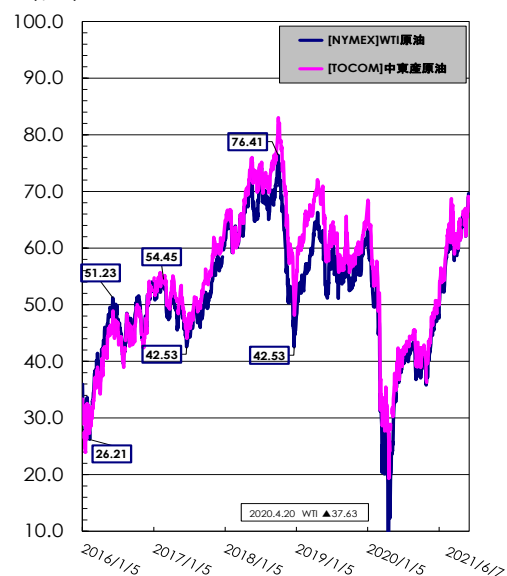
為替は5月27日～6月2日の間109.16～109.97円の範囲で推移した。6月3日109.59円、4日110.28円、7日109.59円、8日109.45円、9日109.46円で推移した。

財務省が6月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、5月中旬の原油輸入平均CIF価格は、44,404円/klで、前旬比61円安、ドル建て64.86ドルで前旬比0.37ドル安、為替レートは1ドル/108.86円。

そのような中で、6月7日時点の小売価格は、ガソリンが前週(5月31日)比0.4円の値上がり、軽油も同0.5円の値上がり、灯油は同6円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりの値上がり、灯油は27週連続の値上がりだった。この週(6月第2週)の原油コストは値上りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の引き上げとなった模様。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/30 ~ 6/5	2,402 ▼ -18	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	62.4 ▼ -0.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/5	11,699 ▲ 465	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/7	68.61 ▲ 2.26	▲ 26.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/7	69.23 ▲ 1.51	▲ 31.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	64.86 ▼ -0.37	▲ 39.90
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,404 ▼ -61	▲ 27,594
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.86 ▼ -0.53	▼ -1.79
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/7	110.57 ▲ 0.19	▼ -0.09

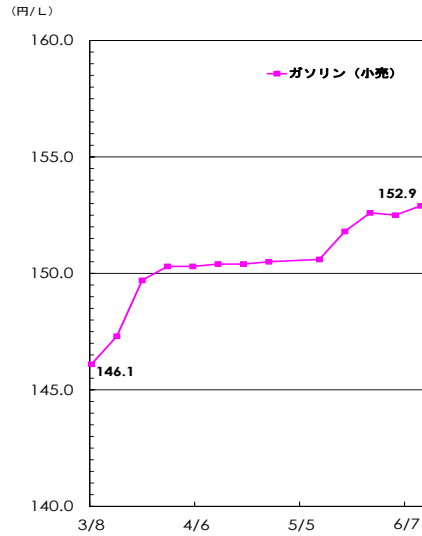
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/30 ~ 6/5	820 ▲ 36	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	822 ▲ 227	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/5	2,271 ▼ -3	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/1 ~ 6/7	63.0 ▲ 1.9	▲ 27.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/1 ~ 6/7	61.4 ▲ 1.9	▲ 26.0
		(TOCOM/中部)	6/7	62.2 ▲ 2.0	▲ 23.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/7	152.9 ▲ 0.4	▲ 24.2	

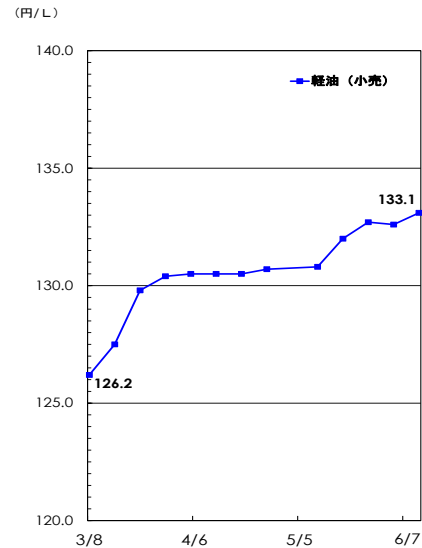
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

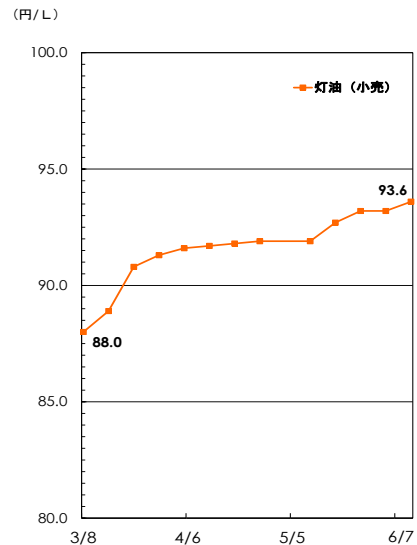
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/30 ~ 6/5	553 ▲ 16	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	495 ▲ 37	▼ -	
	輸出	"	6 ▼ -45	▼ -	
	在庫	6/5	1,966 ▲ 52	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/1 ~ 6/7	64.8 ▲ 1.6	▲ 26.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/1 ~ 6/7	66.9 ▲ 1.6	▲ 20.6
		(TOCOM/中部)	6/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/7	133.1 ▲ 0.5	▲ 23.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/30 ~ 6/5	143 ▲ 27	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	134 ▲ 63	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	6/5	1,571 ▲ 8	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/1 ~ 6/7	64.7 ▲ 2.1	▲ 27.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/1 ~ 6/7	60.3 ▲ 1.9	▲ 24.8
		(TOCOM/中部)	6/7	64.0 ▲ 2.6	▲ 25.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/7	93.6 ▲ 0.4	▲ 16.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月9日のNYMEXのWTI先物原油は小幅ながら反落した。このところ、欧米における経済回復の加速化等を背景に、WTI先物原油は70ドル前後の高水準で推移しているが、9日は利益確定売りが広まった。また、米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油は前週比530万バレル減となったものの、6月のドライブシーズンにもかかわらず、ガソリンが前週比700万バレル増と市場予想を大きく上回る積み増しだったことが懸念され、値下がり要因となった。ただ、EIAの在庫統計発表前には、一時70.82ドルと2018年10月以来の高値を付ける場面もあった。7月限の終値は前日比0.09

ドル安の69.96ドル、8月限の終値は0.08ドル安の69.79ドル。

EIAによると、6月7日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.8セント値上がりの1ガロン3.035ドル(88.5円/㍗)、ディーゼルは同1.9セント値上がりの3.274ドル(95.5円/㍗)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは6週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年5月30日～6月5日に休止したトッパー能力は82.1万バレル/日で、前週に対して12.6万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は240.2万klと、前週に比べ1.8万kl減少。前年に対しては26.7万klの増加。トッパー稼働率は62.4%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては7.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.6%増、ジェット/5.6%減、灯油/23.8%増、軽油/3.1%増、A重油/17.9%減、C重油/49.6%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比1.0万kl減)。軽油の輸出は0.6万kl(前週比4.5万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では軽油が減少し、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は82.2万kl(対前週38.2%増)と2週振りで増加した。ジェット8.0万kl(対前週12.1%減)、灯油13.4万kl(対前週88.4%増)、軽油49.5万kl(対前週8.0%増)、A重油13.9万kl(対前週23.9%減)、C重油26.9万kl(対前週63.0%増)。

(単位:千kl)

	今週 (5/30 ~ 6/5)	前週 (5/23 ~ 5/29)	前週比
ガソリン	822	595	▲ 227 (38%)
ジェット燃料	80	91	▼ -11 (-12%)
灯油	134	71	▲ 63 (89%)
軽油	495	458	▲ 37 (8%)
A重油	139	183	▼ -44 (-24%)
C重油	269	165	▲ 104 (63%)
合計	1,939	1,563	▲ 376 (24%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月5日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは227.1万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては53.1万kl多い。

灯油は157.1万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては4.4万kl少ない。

軽油は196.6万kl、前週差5.2万kl増。前年に対しては59.8万kl多い。

A重油は78.0万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては2.5万kl多い。

C重油は199.1万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては6.8万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (6/5)	前週 (5/29)	前週比
ガソリン	2,271	2,274	▼ -3 (-0%)
ジェット燃料	731	740	▼ -9 (-1%)
灯油	1,571	1,563	▲ 8 (1%)
軽油	1,966	1,914	▲ 52 (3%)
A重油	780	785	▼ -5 (-1%)
C重油	1,991	1,973	▲ 18 (1%)
合計	9,310	9,249	▲ 61 (0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月1日～7日の指標原油価格は前週(5月25日～31日)比で大きく値上がり、為替レートも円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週(6/10～6/16)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比2.0円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月1日～7日の製品スポット市況は、5月25日～31日平均と比べ、全ての油種、全ての取引で、値上がりした。

直近(6/1～6/7)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.9円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。直近週(6/1～6/7)において、ガソリンは115～117円台で値上がり、灯油は63～65円台で値上がり、軽油は64～65円台で値上がり後わずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/1～6/7)に、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は1.6円の値上がり、軽油は1.3円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(6/1～6/7)に、ガソリンは116～118円台で値上がり、灯油は61～62円台で値上がり、軽油は64～66円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.9円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。先物価格は、同期間(6/1～6/7)に、ガソリン114～115円台で値上がり、灯油58～60円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、軽油66～67円台で大きく値上がり後値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/1～6/7)	前週 (5/25～5/31)	前週比
	レギュラー	63.0	61.1
灯油	64.7	62.6	▲ 2.1
軽油	64.8	63.2	▲ 1.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/1～6/7)	前週 (5/25～5/31)	前週比
	レギュラー	61.4	59.5
灯油	60.3	58.4	▲ 1.9
軽油	66.9	65.3	▲ 1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/1～6/7実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 1.9
灯油	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 2.0
軽油	▲ 1.6	▲ 1.6	▲ 1.6
A重油	▲ 1.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(5月31日)比0.4円高の152.9円、軽油も同0.5円高の133.1円、灯油は18%ペースで同6円高の1,684円(1%ペースでは同0.4円高の93.6円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は27週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは35都府県、横ばいは3県、値下がりは9道府県だった。全国最安値は146.3円の徳島県(同0.2円高)、その次に安かったのは147.0円の宮城県(前週比0.3円安)、他方、最高値は162.9円の長崎県(同0.3円高)だった。最も値上がりしたのは同1.8円高の滋賀県(152.8円)で、横ばいは広島県、新潟県、石川

県の3県、最も値下がりしたのは同0.8円安の愛媛県(151.6円)だった。

今週(6月1日～7日)は、指標原油価格は大きく値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(6月10日～6月16日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値上げとなった模様。次回調査時(6月14日)のガソリンの小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向] (単位: 円/%)

	今週 (6/7)	前週 (5/31)	前週比	直近高値
レギュラー	152.9	152.5	▲ 0.4	08/8/4 185.1
灯油	93.6	93.2	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	133.1	132.6	▲ 0.5	08/8/4 167.4

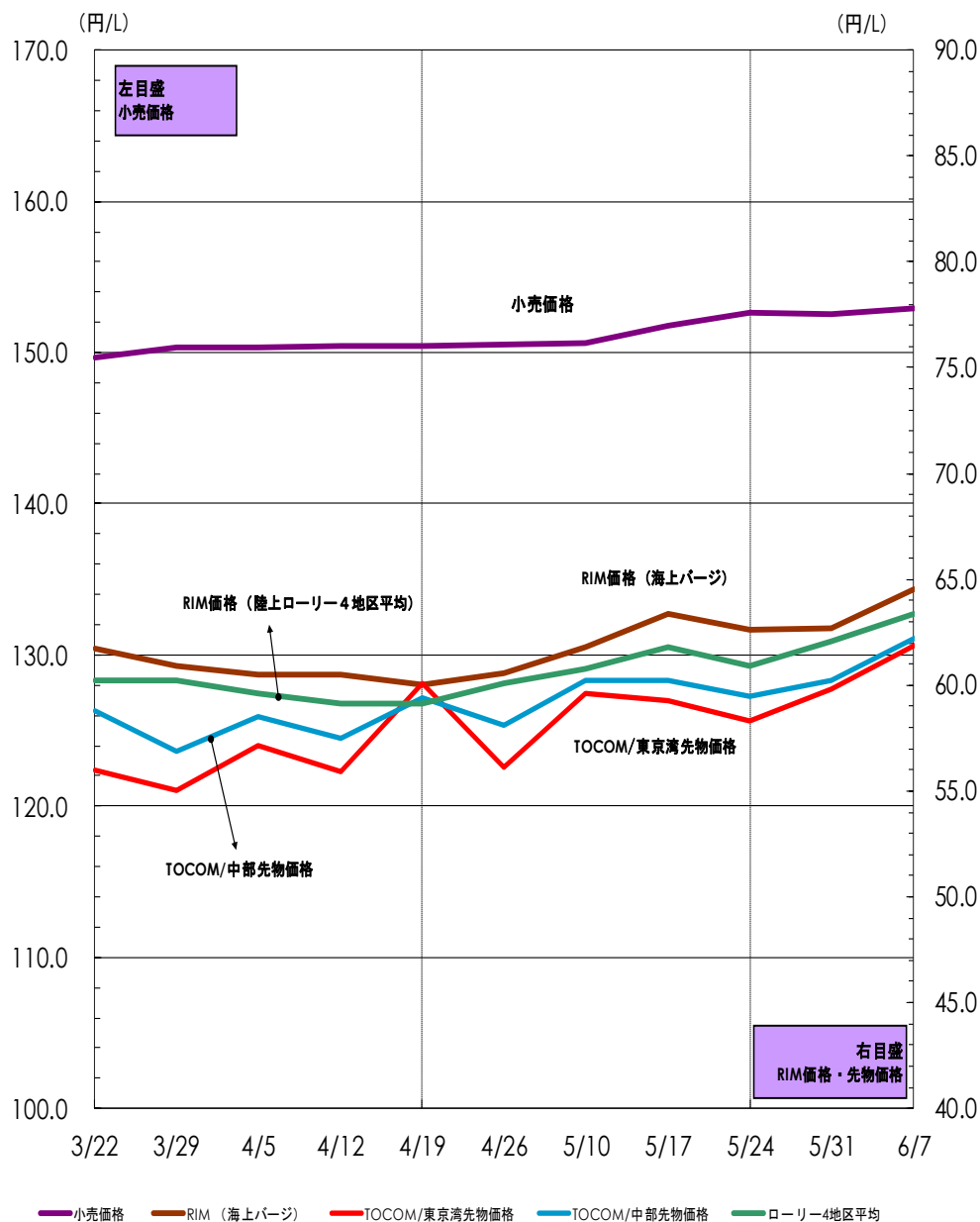
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/3/22 ~ 2021/6/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第11号) の公表は、6/18 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在) は、8月26日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。